

大阪歴史博物館年報

平成26年度



大阪歴史博物館

平成27年6月

目 次

はじめに	1
展観事業	1
資料収集	6
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し	9
教育普及事業	10
学校連携事業	13
ボランティア関連事業	13
その他の連携事業・「大阪歴史博物館友の会」との連携	14
広報宣伝活動	15
刊行物	16
調査研究活動	16
平成 26 年度入場者数	20
委嘱・派遣・視察	20
条例と規則	22
運営組織	24

はじめに

平成 26 年（2014）4 月に館長に就任してから 1 年が経過しました。この間、さまざまな機会を通じて当館の活動状況を把握することに努めてきました。しかし、その活動は幅ひろく繰りひろげられているため、全体はなかなか把握できませんでした。

このたびこの「年報」を見て、はじめて当館の多様な活動を総合的に理解することができた次第です。しかし、このことは、私だけでなく、多かれ少なかれ学芸員や事務方の職員にとっても、似たようなことだと思います。おなじフロアに机を並べて勤務しながら、となりの課がどのような仕事をしているのか、となりの学芸員がどのような活動をしているのか、実は十分には認識できていないのではないのでしょうか。

「年報」は、当館の 1 年間の活動の全貌を把握し、館の歴史をたどるツールとして重要です。また、当館の活動を外部の人々・諸組織に知っていただく重要な媒体でもあります。それとともに、自らの活動を客観的に見直す基礎、職員同士の相互認識の基盤でもあることに注意する必要があります。

以上の観点から、「年報」の内容について検討してみることも必要なのではないのでしょうか。気づいたことを 1 つだけあげますと、入場された方々についての情報をもう少し充実させた方がよいと思いました。数の集計だけでなく、入場者の実態に迫る手がかりとなるデータをもっと提示できないか。これを含めて、「年報」の有効性を高めるよう、さらに工夫していく余地があるように思います。

館長 栄原 永遠男

展観事業

常設展示

● 10 階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿をほぼ実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を流している。また映像と映像とのインターバルには、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている 5 世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

● 9 階：中近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世の大坂の町の様子を、町並みおよび大坂本願寺御影堂の復元模型や実物資料で紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居を、復元模型や壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料により紹介している。

● 8 階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2 ヶ月程度の期間で実施している。

● 7 階：近現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市大阪の諸様相を、公設市場・町工場・「心ぶら」などの実寸大で再現している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料によって、諸様相を多方面から紹介している。

● 難波宮跡遺跡展示

博物館・NHK 大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群 16 棟のうち 1 棟が復元展示されている。

● タイム・カプセル EXPO'70

昭和 45 年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する 2,098 点の品々を収納したタイム・カプセルを大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には 2 基が埋設されているが、当博物館の 1 階北東のエスカレーター奥にこれと全く同じものを展示している。

常設展示更新の状況

階	コーナー	内容	展示期間
10	古代難波の序章	大川北岸で見つかった古墳時代の土師器・須恵器	4月 9日～
10	古代難波の序章	馬具の表現がある馬形埴輪	9月10日～
10	前期難波宮	前期難波宮水利施設出土の祭祀遺物	9月25日～12月15日
10	特設展示コーナー	縄文時代の森の宮遺跡で発見された海の生き物	5月28日～ 9月29日
10	特設展示コーナー	『秋』の墨書土器—大阪市内出土の古代文字資料—	10月 1日～12月15日
10	特設展示コーナー	小さい破片だけど、新羅土器！—古代難波の出土資料から—	12月17日～ 3月30日
9	中世都市	黒田家伝来の名刀	5月 8日～ 7月14日
9	大坂三郷	『浪華御役録』の世界	6月25日～ 3月30日
9	天下一の城下町	大坂冬の陣直前に埋められた陶器	9月10日～11月24日
9	まちの生活	工芸品にみる動物	前年度～10月 6日
9	まちの生活	大坂の狩野派絵画	10月 8日～12月 1日
9	まちの生活	新春の屏風	12月 3日～ 1月26日
9	まちの生活	「はかる」の歴史	1月28日～ 3月23日
9	町人の学問・大坂の芸術	水辺の絵画	7月16日～10月 7日
9	町人の学問・大坂の芸術	大坂にちなむ桃と桜の絵画	3月 4日～
9	大坂の幕末・維新コーナー	安政南海地震と安政江戸地震	12月10日～ 3月30日
7	近代都市の建設	ダイビルと建築家・渡辺節	9月10日～11月24日
7	博覧会と大阪	第五回内国勧業博覧会	8月 6日～ 9月23日
7	博覧会と大阪	日本万国博覧会関係資料	9月25日～ 3月30日
7	地域のなかの戦争	日清戦争関係資料	7月16日～ 9月29日
7	地域のなかの戦争	太平洋戦争関係資料	10月 1日～ 3月30日
7	美術工芸の諸相	大國柏斎とその一門	5月21日～ 7月14日
7	美術工芸の諸相	大阪三十六景	7月16日～11月24日
7	美術工芸の諸相	槍 日本号写し 月山貞一	9月10日～11月24日
7	美術工芸の諸相	切嵌細工	11月19日～12月24日
7	美術工芸の諸相	昭和 10 年代の婚礼衣装	12月26日～ 2月23日
7	美術工芸の諸相	昭和 10 年代の着物、明治～昭和初期の頭飾具	2月25日～ 3月30日
7	映像コーナー	8mm 映像「黒部峡谷への旅行」	7月30日～ 3月30日
7	写真パネルコーナー	80 年前に大阪を襲った室戸台風	9月16日～10月20日
7	メディアと流行	新発見 北丹後地震の被害を報じた絵葉書	9月10日～12月 1日
7	メディアと流行	西野田の地主池永恒太郎と選挙	12月 3日～ 1月 5日
7	都市の民間信仰	ヒロボンの祈願札	9月10日～ 1月26日
7	都市の民間信仰	宝船	1月28日～ 2月23日
7	引札と広告	大阪の引札と市電乗換切符の広告	5月21日～ 9月 8日
7	引札と広告	駅弁掛け紙	9月10日～11月24日
7	引札と広告	新年の引札	12月25日～ 1月19日
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司チラシ	1月21日～ 2月 9日
7	引札と広告	さまざまな商売の引札	2月11日～ 3月30日
7	家族と家庭	アイスクリン手作器、現代風俗絵巻	6月11日～ 3月30日
7	鴻池家の生活用具	鴻池家のガラス器など	6月 4日～ 3月30日
7	特設展示コーナー	短刀「乱藤四郎」	3月11日～

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●幕末大坂の絵師 藪長水

会 期：平成26年3月12日～4月14日
出品点数：約30点
担 当：岩佐伸一（詳細は平成25年度年報を参照）

●なにわと朝鮮半島

会 期：平成26年4月16日～6月2日
出品点数：約100点
担 当：寺井 誠

なにわを舞台とした朝鮮半島との交流の歴史を、遺跡出土資料や朝鮮通信使関連資料などによって紹介した。展示は、1) 大陸的文物・習俗の登場（弥生時代～古墳時代前期）、2) 渡来人のふるさと（古墳時代中～後期）、3) 外交の窓口難波（古墳時代後期～飛鳥時代）、4) 百済の再現一細工谷遺跡一（飛鳥～奈良時代）、5) 朝鮮通信使と大坂（江戸時代）の5章で構成した。また、韓国の研究機関より提供頂いた参考資料写真や、現在の韓国の町の風景や遺跡の写真パネルを掲示することにより、隣国の歴史・文化を理解しやすいよう努めた。

展示資料は陶質土器短頸壺（平野区加美遺跡出土）、百済土器（中央区難波宮跡等）、朝鮮通信使川御座船図（辛基秀コレクション）など約100点で、5月10日・31日に展示解説を行った。

●意匠を読み解く 小袖の魅力

会 期：平成26年6月4日～7月14日
出品件数：32件
担 当：中野朋子

「小袖」は、現代の「きもの」の原形となる衣服である。江戸時代には小袖の装飾が多様化し、さまざまな文様や意匠が小袖に施されるようになった。本展では、当館所蔵作品を中心に文様や意匠に特徴のある小袖や関連する工芸作品を取り上げ、文様に込められた意味を丁寧に読み解くことで、難しいと考えられがちな小袖の鑑賞ポイントについて解説した。身に纏う“美術品”であった小袖とそこに込められた美意識、そして美しい小袖の製作に腐心した職人の技に注目して“小袖をみる”ことで、新たに小袖の魅力を知っていただくきっかけとした。

展示作品は、御殿模様衣裳絵（川島織物セルコン織物文化館蔵）、御所解模様（高島屋史料館蔵）、白地松風村雨模様帷子（本館蔵）、鼠地三輪模様小袖（本館蔵、羽間平安氏寄贈）、衣装図案「三輪図」（個人蔵）など32件で、6月21日には展示解説を、6月27日には関連講座として「小袖の魅力、小袖の見方」を開催した。

●河内平野の弥生王墓

会 期：平成26年7月16日～9月1日
出品点数：約80点
担 当：杉本厚典
近畿地方を代表する弥生時代中期の墳丘墓である加美

遺跡 Y-1 号墓（大阪市平野区加美東 6 丁目所在）の発掘調査から 30 年を記念して、同墳墓より出土した銅釧・ガラス玉・供献土器・木製品等の資料を網羅的・体系的に展示した。同時に、大阪市内で見つかった弥生時代中期から後期にかけての墳墓から出土した遺物・写真パネルを展示して、河内地域における弥生時代の墳墓や葬送儀礼の特徴を解説した。主な出品資料は「Y-1 号墓 1 号木棺出土のガラス勾玉と丸玉」、「Y-1 号墓 2・14 号木棺出土の銅釧と Y-1 号墓 2 号木棺出土のガラス平玉」、「Y-1 号墓出土供献土器」（いずれも弥生時代中期、大阪市教育委員会蔵 大阪市指定文化財）など約 80 点で、また関連行事として、展示解説を 7 月 19 日、8 月 23 日の 2 回実施し、発掘調査担当者である田中清美氏（公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所学芸員）の講演会を 8 月 9 日に開催した。

●新発見！なにわの考古学 2014

会 期：平成26年9月3日～11月3日
出品点数：170点
共 催：大阪市博物館協会大阪文化財研究所
担 当：豆谷浩之・大阪文化財研究所

（京嶋覚・積山洋・田中裕子・櫻田小百合）

この特集展示では、平成25年度に実施された大阪市内の遺跡発掘調査の成果を、大阪の地域的な特徴がうかがえる遺物・遺構を中心に紹介した。展示構成は「1）弥生～古墳時代の大阪」「2）難波と河内の開発 古墳時代～古代」「3）大坂城本丸の調査」「4）大坂城下町の開発 中世～近世」であり、主な展示資料として、難波宮跡で出土した日本最古級（7世紀中葉）の木簡、豊臣期大坂城の石垣公開計画に伴う発掘調査で出土した徳川大坂城の屋根を飾ったと考えられる「三つ葉葵文鬼瓦」などを陳列した。

また関連行事として講演会「大阪の歴史を掘る 2014」を 10 月 13 日に開催し、展示解説を 9 月 13 日・27 日、10 月 18 日・25 日、11 月 1 日に実施した。

●両替商 銭屋佐兵衛

会 期：平成26年11月5日～平成27年1月5日
出品点数：約50点
担 当：八木 滋

江戸時代から明治にかけて大坂の両替商だった銭屋（逸身）佐兵衛家（銭佐）にのこされていた古文書（逸身喜一郎氏所蔵、現在は大阪歴史博物館寄託）が約 10 年前に見つかった。「逸身家文書研究会」により関連史料も含めて調査・研究が進められ、平成 26 年 10 月末に『両替商 銭屋佐兵衛』（東京大学出版会）としてその成果が刊行された。同書では、銭佐に生まれ、暮らし、働き、出入りしていた人びとの姿が浮かび上がり、経営はもとより銭佐の全体像が明らかになった。

本展示では、論集の刊行に合わせて、その成果の主要部分を逸身家文書や銭佐日記（大阪商業大学商業史博物館所蔵）などにより、わかりやすく紹介した。また、本展示は当館共同研究「大坂の両替商銭屋佐兵衛家の研究と展示」の成果でもある。関連行事としてシンポジウ

ム「両替商 銭屋佐兵衛」を11月23日に、現地見学会を12月6日に開催し、展示解説を11月8日・16日・22日、12月14日、1月5日に実施した。

●月岡雪鼎とその一門

会 期：平成27年1月7日～2月16日

出品点数：約20点

担 当：岩佐伸一

独特の美人表現を創り出し江戸時代中期の大坂で活躍した月岡雪鼎（1710または26～1786）の画業を紹介した。

雪鼎は、色白で鼻筋の通った瓜実顔（うりぎねがお）の美人画を描き、大坂や京都の富裕な人々に好まれた。そのみならず、狩野派や雪舟流の表現も駆使してさまざまな作品を描き、肉筆画のほか絵本の挿絵をはじめ出版にも深くかかわった。本展では、「雪鼎の絵画」、「雪鼎の門人たち」「雪鼎に連なる人々」のコーナーを設けて雪鼎およびその門人や後世への影響を理解できるように努めた。

出品作品は当館寄託品と館蔵品を中心に、雪鼎や門人たちの美人画や人物画、版本や絵図など多様な資料を展示した。主な出品資料は「貴美人図 月岡雪鼎筆（個人蔵）」、「唐子遊図 月岡雪鼎筆（個人蔵）」、「源経基像 岡田玉山筆（本館蔵）」など約20点で、展示解説を1月10日・17日に実施した。

●大阪相撲れきはく場所

会 期：平成27年2月18日～3月30日

出品点数：約60点

担 当：飯田直樹

かつて大阪は相撲興行のメッカであった。現在の相撲に発展する相撲興行は、江戸時代には大阪、江戸、京都の三都で開催されており、それぞれ三都には大相撲興行を担うプロの相撲集団－大阪相撲、江戸相撲、京都相撲－が存在していた。当館では、平成17年の特集展示「大阪相撲の歴史」開催を機に、番付や相撲絵など関係資料を収集してきた。

本展では、これら新収資料を中心にして、「地域開発と相撲」、「社会福祉と相撲」、「市場社会と相撲」といったこれまであまり注目されなかったテーマを設定して、大阪相撲の歴史を紹介した。あわせて、頭取（力士の親方）や力士など大阪相撲ゆかりの人々を紹介した。

主な出品資料は「写真 第14代朝日山四郎右衛門大正期（個人蔵）」、「大阪大相撲之図 明治25年（本館蔵）」、「寄附大相撲御案内書と入場券 明治34年（本館蔵、中野武治氏寄贈）」、「大阪大国技館竣工記念たばこ盆 昭和12年（本館蔵、三枝濱子氏寄贈）」、「阪南相撲協会頭取若寅寅吉所用化粧廻し 昭和期（個人蔵）」など約60点で、3月8日・15日・21日・22日に展示解説を実施した。

特別展

●第52回特別展

上方の浮世絵

—大坂・京都の粋と技—

会 期：平成26年4月19日
～6月1日

開館日数：39日間

入場者数：15,607人

出品点数：212件

図 録：A4判変形、260頁

担 当：岩佐伸一、飯田直樹、豆谷浩之、澤井浩一

主 催：大阪歴史博物館、NHK大阪放送局、
NHKプラネット近畿

本展では、江戸時代の人々に愛好された浮世絵のうち、大坂や京都で制作された「上方絵」を展示した。

18世紀の末に大坂や京都で制作が開始された上方絵は、作品の多くが役者絵であった。役者を美化した江戸の作品とは異なり、写実的に描く特徴があるといわれている。また町のにぎわいや名所を描いた作品もあり、上方ならではの美意識が反映されている。

近年、世界的規模での上方絵の調査研究が飛躍的に進んだ。それらの成果をもとに、初公開作品15件を含めた国内所蔵品212件を展示し、上方絵の全体像を通覧できる展覧会として展示の構成および作品の選定を行った。

◇おもな展示資料

- 四季風俗図巻 西川祐信 享保年間（1716～36）
千葉市美術館蔵
- 申の年大小暦 有楽斎長秀 天保7年（1836）
個人蔵
- 四代目中村歌右衛門の業平 柳斎重春
天保9年（1838）山村流六世宗家 山村若氏蔵
- 松島廓大芝居人形芝居繁栄図 一養亭芳滝
明治5～9年（1872～76）頃 個人蔵

◇関連行事

- 「上方の浮世絵」展オープニングコンサート4月27日
- 講演会「上方浮世絵の世界」4月29日
- 展示解説 4月25日、5月2日・9日

●第53回特別展 難波宮発掘調査60周年記念

大阪遺産 難波宮—遺跡を読み解くキーワード—

会 期：平成26年6月21日
～8月18日

開催日数：50日間

入場者数：17,836人

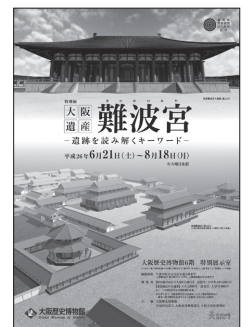
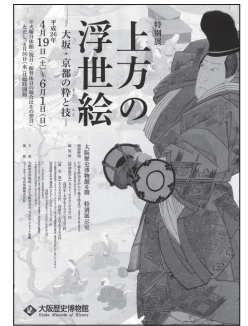
展示点数：約450点

図 録：A4版、104頁

担 当：李陽浩、村元健一

主 催：大阪歴史博物館、
（公財）大阪市博物館
協会大阪文化財研究所

平成26（2014）年は、難波宮の第1次発掘調査が開始されてから60周年となる記念すべき年である。60年にわたる調査は、私たちに知られざる難波宮の姿を示すとともに、日本古代史をも書き換えるような画期的な知



見をもたらした。

本展では、長年にわたる調査成果とその発掘史を、この間の出土遺物や当時の記録類、当館所蔵の山根徳太郎博士旧所蔵資料などを用いて、瓦や土器、文字といった簡明な15のキーワードから読み解くことを意図した。展示において難波宮発掘調査の過去と現在を示すとともに、それが未来に向けた、私たち共有の大切な遺産であることを紹介した。

◇おもな展示資料

- 鷗尾（しび）8世紀
大阪文化財研究所保管、大阪市指定文化財
- 壁土 7世紀中ごろ 大阪文化財研究所保管
- 万葉仮名文木簡 7世紀中ごろ
大阪文化財研究所保管、大阪市指定文化財
- 難波宮跡出土の柱根 7世紀
公益財団法人大阪府文化財センター保管
- 推定難波宮址現状実測図 現代 本館蔵
(山根徳太郎博士旧所蔵資料、濱田百合子氏寄贈)

◇関連行事

- 新館長就任記念 なにわ歴博館長による講演会
「聖武天皇と難波宮」 6月29日
- 記念シンポジウム「難波宮発掘、その可能性の中心」
7月5日
- 見学会「初期の発掘地点を巡るツアー」
7月25日、8月1日
- 難波宮博士による特別展の展示解説
7月27日、8月3日・17日
- 展示解説
6月28日、7月12日・21日、8月9日・16日
- 写真パネル展 6月4日～8月18日

●第54回特別展

村野藤吾 やわらかな建築とインテリア

会 期：平成26年9月3日
～10月13日

開館日数：35日（10月13日は
臨時休館のため）

入場者数：15,562人

出品点数：約200点

図 録：A4判、144頁

担 当：酒井一光、伊藤純、
八木滋

特別協力：京都工芸繊維大学 美術工芸資料館、
村野家、MURANO design

村野藤吾（1891-1984）は、大阪を拠点に活躍した日本を代表する建築家である。平成26年は、村野藤吾の没後30年にあたることから、建築関係資料やインテリアを通して、その業績を回顧する展覧会を開催した。

村野は、建築家・渡辺節のもとで綿業会館などの設計を担当し、昭和4年（1929）の独立後は旧そごう大阪店（現存せず）、梅田吸気塔など、大阪の都市景観に欠かすことができない建築を設計し、全国各地に300を超える数の作品を残した。また、村野は時代の潮流であったモダニズムから一定の距離をおき、ひとの感性や手仕事を

重視して建築を設計した。こうした彼の姿勢は、建築という無機質で堅牢な印象になりがちな存在を、五感にやさしく訴えかける「やわらかな」ものへと変えていった。

本展では、建築展で通常紹介される設計図やスケッチ、模型はもちろん、家具や建築部材、村野自身の愛用品などを通して、建築家・村野藤吾とその作品をより身近な存在に感じてもらうことを意図した。展示品の中でもとりわけ椅子、卓子、傘立てなどの家具を重視したのは、村野が建築細部を設計するのと同様の視点で、家具の細部設計にまでこだわったためである。

京都工芸繊維大学美術工芸資料館、村野家、MURANO designをはじめとする所蔵者・関係者より多大なご協力を得ることができ、村野藤吾研究の最新の成果を取り入れながら、普段は目に触れる機会が少ない村野の身近な生活の様子も紹介することができた。

◇関連行事

- 講演会「村野藤吾の建築」 9月6日
- ワークショップ&トークショー 9月23日
- 座談会「村野藤吾と大阪の文化を語る
—建築・アート・まちなみ—」 10月4日
- 講演会「次世代に伝えたい村野藤吾の可能性」
10月11日
- 展示解説 9月7日・14日、10月5日・12日

●第55回特別展 一現代刀匠二番勝負—

お守り刀展覧会×二次元 vs 日本刀展

会 期：平成26年11月1日～12月23日

開催日数：47日間

入場者数：20,457人

出品点数：約100点

図 録：A4版62頁（お守り刀展覧会）、
A4版68頁（二次元 vs 日本刀展）

担 当：内藤直子・船越幹央・木土博成

主 催：大阪歴史博物館、全日本刀匠会、
備前長船刀剣博物館（お守り刀展覧会のみ）

共 催：長野県坂城町（お守り刀展覧会のみ）

後 援：文化庁・大阪府・大阪府教育委員会・大阪
市・大阪市教育委員会（いずれもお守り刀
展覧会のみ）

本展覧会は、現代刀匠の刀剣製作における伝統と革新という2つの柱を「お守り刀展覧会」と「二次元 vs 日本刀展」という2つの企画で一体的に展示し、未来指向の現代刀匠たちの「今」を紹介した。

「お守り刀展覧会」は、日本刀の精神性である「加護を願う心」を伝統的製作技術により具現化した「お守り刀」のコンクール展である。9回目を迎える本展では、専門の審査員による賞に加え、市民の投票結果により賞を授与することを新たな試みとし、より開かれた展覧会を目指した。

一方、「二次元 vs 日本刀展」は、現代の二次元アートや現代小説と刀剣との融合にチャレンジする実験的企画で、平素交わることのない現代刀匠とイラストレーターや小説家などがお互いに刺激し合う中で創造された作品を展示し、新しい物語を持った新世代日本刀のあり

かたを示した。

なお、特別出品として、横綱・白鵬関が土俵入りに用いる太刀（月山貞利刀匠作）を会場内に展示した。

◇関連イベント

- プレ講座「関西の刀剣史を歩く」 10月31日
講師：当館学芸員 内藤直子
- お守り刀ファッションショー 11月1日・2日
- 市民審査員賞の投票と授与
協賛：社団法人伝統文化後継者育成支援協会
投票期間：11月1日～11月30日
結果発表：12月2日
結果：総投票数 3285 票（有効票）
市民審査員賞受賞作：脇指 月山貞伸刀匠作（358 票）
- 記念フォーラム「日本刀の生き残りをかけて
With 添田一平サイン会」
11月29日 [パネリスト] 川崎晶平（刀匠）、高見國一（刀匠）、月山貞伸（刀匠）、木下宗風（刀身彫刻）、坪内哲也（刀匠会事務局） [スペシャルゲスト]

- 添田一平氏（イラストレーター）[コーディネーター]
木村麻子氏（社団法人伝統文化後継者育成支援協会代表） [司会] 内藤直子（大阪歴史博物館）
- 月山貞利氏による「お守り刀展覧会」解説
12月13日 講師：月山貞利刀匠
（奈良県無形文化財・全日本刀匠会顧問）
 - サイン会
11月23日：夢路キリコ氏、12月21日：開田裕治氏



資料収集

平成 26 年度は、購入・寄贈によって新たに 213 件 7,329 点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●平成 26 年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	7,066	19	0	7,085
美術	106	16	0	122
考古	0	0	0	0
民俗	4	0	0	4
芸能	92	0	0	92
建築	26	0	0	26
	7,294	35	0	7,329

●館蔵品総点数（平成 27 年 3 月 31 日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	73,155	9,143	86	82,384
美術	5,537	1,648	3	7,188
考古	7,025	4,765	6,178	17,968
民俗	4,539	2,485	2	7,026
芸能	10,420	1,029	3	11,452
建築	5,484	0	27	5,511
	106,160	19,070	6,299	131,529

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料一覧

購入

●歴史

◇朝鮮通信使関連資料	
姜沆蘭図扁額	1面
任統詩書	1幅
玄徳淵詩書五絶	1幅
朴徳源詩書	1幅
朴東普詩書	1幅
李梅溪筆 明善要言	1帖
和漢唱酬集	7冊
李梅溪詩書七言二句	1幅
正徳度朝鮮通信使国書先導船図屏風	1点 (8曲1隻)
天和度朝鮮通信使上判事第一船図	1幅
正徳度朝鮮通信使上々官第三船図・同供船図	2面
朝鮮通信使御樓船図屏風	1点 (6曲1隻)

●美術

◇朝鮮通信使関連資料	
一蝶画譜 英一蝶筆	1冊
松下虎図 下璞筆	1幅
鷹図 荷潭筆	1幅
瀟湘八景図卷 狩野清真筆 李鵬溟賛	1巻
樹下人物図 金有声筆	1幅
虎図 李元祭筆	1幅
布袋図 金明国筆	1幅
釜山浦富士図 狩野典信筆	1幅
江戸祭礼図・唐人行列図屏風	2点 (6曲1双)
文化度朝鮮通信使人物図巻	1巻
天和度朝鮮通信使登城行列図屏風	1点 (8曲1隻)
唐子遊図屏風	1点 (8曲1隻)
唐子遊図屏風	1点 (2曲1隻)
山水図屏風	1点 (8曲1隻)
虎図屏風	1点 (2曲1隻)

寄贈

●歴史

◇池永敏子・池永節子氏寄贈資料	
池永家家政関係資料	1,650点
池永家名譽職関係資料	1,674点
池永家家計関係資料	3,029点
◇伊藤禎三氏寄贈資料	
名句選百景競浪花のながめ	1冊
蘆都心齋街著名大舗謡曲寿譚譜	1冊
大阪市電乗換切符	41枚
大阪市電乗換切符 (台紙張り)	5枚
自治制発布五十周年記念乗車券	11枚
紀元二千六百年記念乗車券	1枚
大阪市営地下鉄乗車券	5枚
南海電鉄乗車券	1枚
大阪環状線開通記念乗車券	2枚
京都市電乗換切符	4枚
市制施行五十年記念乗車券	5枚
市制施行五十年記念乗車券	2枚
市制施行五十年記念乗車券	1枚
北野線廃止記念乗車券	2枚
記念乗車券袋	1点
漢口攻略記念電車回数乗車券	1綴
漢口攻略記念市バス回数券	1綴
漢口攻略記念市バス回数券	1綴
自治制発布五十周年記念乗車券	1枚
自治制発布五十周年記念乗車券	1枚

自治制発布五十周年市バス乗車券	1枚
開港記念祭自動車乗車券	1枚
市営二十周年電車記念乗車券	1枚
興亜奉公日神社参拝市内電車乗車券	1枚
紀元二千六百年式典参列者鉄道乗車証	1通
紀元二千六百年記念神宮参拝乗車券	1枚
紀元二千六百年記念乗車券	1枚
紀元二千六百年記念聖地参拝乗車券	1枚
観艦式記念優待乗車券	1枚
大札記念事業竣工記念乗車券	1枚
電車運転系統図	1枚
第二十四回全国中等学校優勝野球大会指定席券	1枚
御食事回数券	1枚
社団法人映画配給社観覧券	1枚
絵葉書	243枚
新装成れる大阪城の雄姿	6枚
選挙肅正スタンプ	18枚
難波八阪神社御創祀の起源	2部
紀元二千六百年奉祝市展陳列目録	1冊

◇大塩明人氏寄贈資料

中齋和牘・格之助和牘	9巻
弓	1張
弓詩	1幅
洗心洞筭記 付録共	3冊
洗心洞学名学則並答人論学書略	1冊
洗心洞孔孟学揭示 (複製)	1枚
難波騒動記	1冊
大坂騒動之節落文写 附録写	2冊

◇奥田幸治郎氏寄贈資料

千日前奥田社中旗	1流
通信簿	4通
通信簿	2通
写真	1枚
辞令	21通
戸籍謄本	1通
功績調書	2通
大阪市皇軍慰問団腕章	1点

◇川村一仁氏寄贈資料

阪南相撲協会頭取若寅寅吉引退記念相撲番付	1枚
阪南相撲協会頭取若寅寅吉引退記念相撲写真	1葉
若寅寅吉引退記念相撲番付掲示板	1点
若寅寅吉所用明荷	1点
若寅寅吉所用化粧廻し	1点
若寅所用廻し	4点
阪南相撲協会役員バッジ	1点
阪南相撲協会バッジ	1点

◇久世仁士氏寄贈資料

大阪市電気軌道開業満二十年記念文鎮	1点
-------------------	----

◇貞利克代氏寄贈資料

書状 (伊勢ヶ浜勘太夫→大鳥屋本店)	1通
書状 (伊勢ヶ浜勘太夫→大鳥屋)	1通
大阪大国技館大入袋	1点
絵葉書 竣工近キ大阪大国技館側面	1枚

◇高尾尚子・三好智子氏寄贈資料

神戸高等商業学校絵葉書	5枚
古美術・古社寺絵葉書	124枚
了仙寺秘仏閣写真	10枚
撰社率川坐大神御子神社記略	3部

奈良西ノ京薬師寺案内記	1部	◇村上昌子氏寄贈資料	
大和聖地巡拝見学講座パンフレット	24部	吉向焼菓子皿	2枚
		薄紅地御所解模様帷子	1領
◇高橋志摩子氏寄贈資料			
9.5ミリフィルム	6巻	●民俗	
◇中村知也氏寄贈資料		◇松本久博氏寄贈資料	
日本万国博覧会概観 昭和13年	1冊	看板 菊正宗 明治屋	1点
神戸博グラフ 昭和25年	1冊	◇山内 章氏寄贈資料	
全関西婦人联合会第25号 大正15年9月	1冊	人形頭石膏型	1組
		人形頭	2点
◇西川サキ子氏寄贈資料		●芸能	
東京五輪聖火リレートーチ	1点	◇小西弘久氏寄贈資料	
東京五輪聖火リレー記念メダル	3枚	四季草花図寄合書画幅 初代中村鴈治郎他	1幅
東京五輪聖火リレー写真	5枚	秋草図寄合書画幅 初代中村鴈治郎他	1幅
百円硬貨	1枚	イ菱・寒雀に扇・三ツ寄花菱蝶紋小皿	3枚
淀川 1964年10月号	1冊		
◇羽場 究氏寄贈資料		◇中村知也氏寄贈資料	
歴代御陵謹拝帖	1冊	映画ポスター 長崎の鐘	1枚
参陵必携	1冊	映画ポスター 宗方姉妹 丹波市劇場	1枚
皇陵巡拝案内記	1冊	映画ポスター 春の戯れ	1枚
歴代御陵めぐり	1冊	映画ポスター 風の子	1枚
被保険者証票	2通	映画ポスター 斬られの仙太	1枚
交通調査票	1枚	映画ポスター 天の夕顔 丹波市劇場	1枚
銀札	11枚	映画ポスター フランチェスカの鐘	1枚
		映画ポスター 情婦マノン	1枚
◇藤枝宏治氏寄贈資料		映画ポスター 靴みがき 丹波市劇場	1枚
曾根崎村文書	68点	映画ポスター オヴァランダース	1枚
		映画ポスター 悪漢バスコム	1枚
●美術		映画ポスター フィラデルフィア物語	1枚
◇西谷幸男氏寄贈資料		映画ポスター ゴラの生涯	1枚
矢立	40点	映画ポスター カナリヤ姫	1枚
煙管	45点	劇団中央座公演ポスター 平和への先駆者 京都・新聞会館	1枚
		新自由座第一回記念公演ポスター 手をつなぐ子等	1枚
◇濱本悦男氏寄贈資料		アサヒグラフ別冊 映画と演芸	
脇指 銘 以南蛮鉄於武州江戸越前康継		昭和28年9月～昭和33年12月	21冊
本多飛弾守成重所持内		読売新聞スクラップ「よみうり演芸館」	5冊
(附). 梨子地葵蒔絵小さ刀拵	1口	朝日新聞スクラップ「タレント千一夜」	1冊
大身槍 銘 酒造之祖神和州一宮於三輪大明神御大前		朝日新聞夕刊スクラップ	
月山貞一謹彫同作 行年五十九歳 研本阿弥日洲		「洋画の日本語ふきかえ賛成か反対か」1～5	1冊
昭和丙午歳如月淬刃 同年極月功畢 模天下之名槍日本号		イギリス映画会案内 中村利雄宛	
薫山誌 昭和丁未年正宗賞受賞之槍也 寒山		1932年11月～1933年4月	5通
(附). 黒漆青貝微塵塗柄槍拵	1口	FAN 第十輯 昭和14年8月 銀座書房	1冊
刀 銘 和州三輪大明神狭井河之上 太阿月山源貞一謹彫		モダンタイムス 昭和12年12月	1冊
同作 相州伝模切物埋忠明寿 昭和己酉年二月吉祥日正宗賞		松竹座ニュース 神戸・松竹座	1冊
受賞 依濱本家重代所望作之	1口	映画「東京オリンピック」プレスシート	4部
短刀 銘 山城国西陣住人埋忠明寿 慶長拾三年八月吉日		名刺	6枚
太阿月山源貞一彫同作 昭和庚戌歳春彼岸	1口	松竹株式会社大阪支店職員名簿 昭和16年3月・11月	2冊
短刀 銘 写尾州家正宗 月山源貞一天下三包丁之一		人形浄瑠璃三業名簿原稿	1綴
薫山誌 昭和四十九年八月吉日	1口	原稿封筒 松竹株式会社大阪支店宣伝部	1枚
刀 銘 和州住月山貞利彫同作	1口	松旭齋天勝引退記念冊子 水明館発行 昭和9年3月	1冊
刀 銘 出雲大掾藤原吉武		松旭齋天勝引退興行パンフレット 神戸湊川・松竹劇場	
(附). 小刻朱石地塗鞘刀拵	1口	昭和10年2月	1部
刀 銘 兼則	1口	関屋敏子嬢独唱会プログラム 神戸若葉会	1部
刀 銘 水心子正秀 天明元年五月日		松山芳野里氏独唱会プログラム 神戸・青年会館	
(附). 黒塗鞘刀拵	1口	昭和2年4月21日	1部
脇指 銘 川部北司水心子藤原正次/天保十五年仲秋		第八回ハーモニカ大演奏会曲目 神戸・青年会館	
(附). 黒塗鞘脇指拵	1口	大正14年5月23日	2部
太刀 銘 兼久		秋のコンサートプログラム 静岡高等学校	
(附). 朱塗鞘突兵拵	1口	昭和5年10月4日	1部
		フェオドル・シャリアピン独唱会プログラム 中央公会堂	
◇藤本治子氏寄贈資料		昭和16年2月12～19日	1部
浅葱地幔幕太鼓楽器模様蒲団	1枚	レオニード・クロイツァー告別ピアノ独奏会プログラム	

日比谷公会堂 5月12～13日 1枚
 ホームグラフ第59号 昭和16年12月 1冊
 真太陽第16巻1号 昭和20年1月 1冊
 週刊朝日1234号 昭和18年9月 1冊
 みつこし 昭和18年1月 1冊
 関西ライカ倶楽部会報第14号 昭和15年5月 1冊
 SAKURA 第4年10号 昭和17年10月 1冊

◇羽場 究氏寄贈資料
 SPレコード 大大阪祭／大阪音頭 ミス・コロムビア／藤本二三吉 1枚
 SPレコード 宝塚少女歌劇 ローズ・パリ／算術の歌 三浦時子・橘薫／雪野富士子・橘薫 1枚
 SPレコード 国際オリンピック派遣選手応援歌 中野忠晴／日本コロムビア混声合唱団 1枚
 人形浄瑠璃パンフレット 四ツ橋文楽座 1冊
 映画「子供の四季」前篇・後篇案内 1枚
 OHASHIZA ニュース No.119 1冊

●建築

◇泉川渥洋氏寄贈資料
 大阪朝日ビル 記念品 1点
 フェスティバルホール 記念品 1点

◇株式会社プリンスホテル
 グランドプリンスホテル新高輪寄贈資料
 グランドプリンスホテル新高輪 客室枝折戸 2点
 グランドプリンスホテル新高輪 客室前照明覆 2点

◇大和ハウス工業株式会社寄贈資料
 新開地ガスビル 外装モザイクタイル（伊奈製陶製） 5点
 新開地ガスビル 外装モザイクタイル役物（伊奈製陶製） 2点
 新開地ガスビル 外装モザイクタイル 5点
 新開地ガスビル エレベータ階数表示版（直線型） 1点
 新開地ガスビル エレベータ階数表示版（半円型） 1点
 新開地ガスビル ガス燈式ブラケット 1点
 新開地ガスビル 温度調整機 1点
 新開地ガスビル ボーダータイル 2点
 新開地ガスビル 1階床面装飾 2点

新収館蔵資料紹介

●朝鮮通信使関連資料

天和度朝鮮通信使上判事第一船図
 天和2年（1682）頃

紙本著色。天和2年（1682）度通信使の来日時に、川御座船として徳島藩主松平淡路守（蜂須賀綱矩）が提供した上判事船第一船と供船三艘の図。韓国国史編纂委員会所蔵「天和信使記録」に「上判事軍官賄船三艘」とあって、本図の描写と一致している。完結した作品と考えられるので、蜂須賀家周辺で描かれた可能性が高い。



館蔵品の修復

平成26年度に修復した資料は下に掲げた表の通りである（11件140点）。

名称	数量	修復概要
刀 丹波守藤原兼道	1口	研ぎ直し
刀 小林伊勢守国輝／延宝五年八月日	1口	研ぎ直し
脇差 石見守国助	1口	研ぎ直し
脇差 摂州藤原包貞	1口	研ぎ直し
刀 大阪陸軍造兵源貞重／昭和十九年十月吉日	1口	研ぎ直し
紅地流水に遠山桜文刺繍振袖	1領	刺繍の整形、および地組織の補強・補修
御所人形 御所車行列（見立て葵祭）のうち、花笠持人形	1体	手足の再接合、および絵具層の剥落止め
京・大坂図屏風	1双	絵具の浮き、剥落個所の固定
16ミリフィルム	31巻	テレシネによるコンテンツ保存（冒頭、および一部全巻）
堀田龍之助博物資料のうち河童図ほか肉筆画	66点	作品のフラットニング、およびマット装
中村順平資料	11点	亀裂・欠落部分の補修、裏打ち、およびマット装

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を6月、9月、3月に計3回実施した。また、7月から9月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。また、3月には学芸員を対象に、博物館におけるIPM（総合的有害生物管理）についての研修を行った。

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム撮影・写真撮影

平成26年度は、大阪歴史資料コレクション85点と堀田龍之助博物資料10点（計1,500コマ）のマイクロフィルム撮影を行い、写真撮影を25点（建築資料7点、絵画資料6点、服飾資料4点、刀剣資料3点、歴史資料2点、芸能資料2点、人形1点）行った。

●図書を受入（平成27年3月31日現在）

平成26年度は新たに4,379件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈3,482件、特別観覧献本73件、移管207件、購入576件、自主刊行物の登録41件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

●「昔の大阪」写真ライブラリーの公開

平成24年度末に移管された都市工学情報センター旧

蔵の大阪市広報写真のうち、モノクロ写真約 7,300 件をホームページにおいて公開した。

閲覧 14 件 (142 点)、印画 1 件 (1 点)、掲載・掲出 180 件 (680 点)、放映 45 件 (80 点)、デジタルオンデマンド 15 件 (24 点) の計 286 件 (1,134 点) の特別観覧があった。

特別観覧

平成 26 年度は撮影 23 件 (170 点)、実測 8 件 (37 点)、

※() 内は資料点数。

館蔵資料の貸出し

平成 26 年度の他機関への貸出しは下記の通りである (20 件 108 点)。

申請者	点数	展覧会名称	貸出期間
大阪市立科学館	1	常設展「大阪舎密局」	平成26年 4月 1日～29年 3月31日
斎宮歴史博物館	1	企画展「かたドール！—さまざまな形の形象埴輪—」	平成26年 7月 7日～ 9月12日
高槻市立しろあと歴史館	4	特別展「戦国 大阪の城—動乱の時代と天下統一—」	平成26年 9月15日～12月20日
神奈川県立歴史博物館	1	特別展「白絵—祈りと寿ぎのかたち—」	平成26年 9月16日～12月12日
名古屋城	3	特別展「天下人への道—信長、秀吉、家康の合戦—」	平成26年 9月18日～12月12日
大阪城天守閣	2	特別展「浪人たちの大坂の陣」	平成26年 9月20日～12月10日
国立歴史民俗博物館	1	企画展 「文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—」	平成26年 9月22日～27年 1月 9日
大阪市立美術館	2	特別展「うた・ものがたりのデザイン—日本工芸にみる《優雅》の伝統—」	平成26年10月 1日～12月20日
大阪商業大学商業史博物館	5	企画展「浪花慕情—菅橋彦とその世界—」	平成26年10月 1日～12月20日
吹田市立博物館	1	特別展「一片の瓦から—東アジアにふれる—」	平成26年10月 1日～12月20日
海の見える杜美術館、 姫路市立美術館	1	特別展「竹内栖鳳展」	平成26年10月31日～27年 4月10日
石川県立美術館	4	企画展「高山右近とその時代」	平成27年 1月 4日～ 2月 8日
茨城県立歴史館	3	特別展「徳川慶喜」	平成27年 1月13日～ 3月31日
大阪市立科学館	63	企画展「江戸時代の天文学」	平成27年 1月16日～ 3月 6日
平野の家わざ永々棟	8	企画展 「雛さまと御所人形の勢揃い—愛らしさの競演—」	平成27年 2月25日～ 3月31日
長浜市長浜城歴史博物館	2	企画展「三大山車祭のヤマと資料展—長浜・祇園・高山—」	平成27年 3月 2日～ 5月 8日
大阪城天守閣	1	特別展「豊臣と徳川」	平成27年 3月 5日～ 5月26日
京都国立博物館	1	特別展「桃山時代の狩野派」	平成27年 3月10日～ 5月31日
江戸東京博物館、京都文化 博物館、福岡市博物館	2	特別展「大関ヶ原展」	平成27年 3月28日～10月 4日
渋谷区立松濤美術館	2	特別展「いぬ・犬・イヌ」	平成27年 3月30日～ 5月31日

教育普及事業

シンポジウム等

◇シンポジウム「大阪における古地理復元と中世史再構築の試み」 10月19日 95名

報告①「中世大坂の古地理研究を展望する—「上町科研」の復元と課題—」 趙 哲済 (大阪文化財研究所)、
報告②「河内平野における 11～16 世紀の地形変遷と耕作地の展開」 井上智博 (大阪府文化財センター)、報告
③「文献史料からみた中世大坂の集落と交通路—河内平野・大阪湾岸エリアを中心に—」 大澤研一、司会 仁木宏 (大阪市立大学)

講座・見学会

●なにわ歴博講座

◇初夏のシリーズ「近代・現代大阪の生活と文化」

5月30日「村野藤吾の建築—タイルの表現を中心に—」 酒井一光 55名

6月6日「新淀川の環境変化と汽水漁業」 伊藤廣之 32名

6月13日「錦影絵の演目復元—種板「道化獅子買」の映像化作業から」 澤井浩一 (大阪市博物館協会) 41名

6月20日「旅人が見た近代大阪の街と人」 船越幹央 58名

◇盛夏のシリーズ「難波宮発掘 60 周年」

7月25日「昭和 29 年第 1 次調査に至るまで—山根徳太郎の熱意と行動—」 伊藤 純 61名

8月1日「古代複都制の起源を求めて」 村元健一 98名

8月8日「難波宮前夜—外交の窓口としての難波—」 寺井 誠 95名

8月15日「難破した宮から難波宮へ—初期の発掘調査と大極殿発見—」 李 陽浩 74名

◇師走のシリーズ「おおさかの近世史・近代史研究」

12月5日「ふなあられ」 木土博成 56名

- 12月12日「近代大阪人の災害意識と地震時の避難行動」飯田直樹 60名
- 12月19日「銭屋佐兵衛と熊本藩国産明礬」八木滋 72名
- ◇冬の講座「大坂の陣 四百年」
- 1月9日「豊臣期大坂城下町の再検討」豆谷浩之 111名
- 1月16日「古文書が語る大坂の陣」大澤研一 118名
- 1月23日「大坂の陣を考古学から探る」松尾信裕 96名
- 金曜歴史講座（公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所と共催、講師はすべて同研究所）
- ◇第1シーズン「むかしの大阪をみらいの大阪へ伝える」
- 6月27日「壁画古墳からみた古代東アジアの文化交流」永島暉臣慎 135名
- 7月4日「豊臣期大坂城本丸を考古学から探る」市川創 164名
- 7月11日「難波宮跡と山根徳太郎博士」長山雅一 100名
- 7月18日「東日本大震災と考古学～福島派遣一年の体験をもとに～」岡村勝行 75名
- ◇第2シーズン「むかしの大阪をみらいの大阪へ伝える」
- 9月5日「近世大坂城下町の鍛冶遺構」田中裕子 92名
- 9月12日「難波宮発掘調査の最前線～最古の木簡・宮周辺部の構造・孝謙東南新宮続報～」高橋 工 118名
- 9月19日「阿波大田井産火打石と近世大坂」絹川一徳 105名
- 9月26日「古代丹比郡条里と古道一長原遺跡の古代水田が語るもの」京嶋 覚 127名
- ◇第3シーズン「むかしの大阪をみらいの大阪へ伝える」
- 11月7日「考古学からみた上方のお酒」渡邊春香 79名
- 11月14日「科学の目で見る金めっき—保存科学の視点から—」東郷加奈子 80名
- 12月21日「鎖国期のヨーロッパ・マジョリカ陶器」松本啓子 55名
- 12月28日「難波砂州の変遷を描く」趙 哲済 150名
- ◇特別編「大阪の文化財を護り伝えてきた日々」
- 3月20日「大阪市の発掘37年—平野遺跡群を掘る—」田中清美 139名
- 3月27日「豊臣秀吉の大坂城改造と朝鮮の役」黒田慶一 166名
- 映画鑑賞会・講座等
- ◇映画講座
- 8月23日「『曾根崎心中』を語る」講師：河内厚郎氏（文芸評論家、宝塚映画祭実行委員長）20名
- ◇大阪アジア映画祭特別ゼミナール
- ①8月17日49名、②9月28日50名、③11月16日52名、④12月7日40名、⑤1月12日52名、⑥2月1日53名 講師：暉峻創三氏（大阪アジア映画祭プログラミングディレクター）
- ◇2014 優秀映画鑑賞会
- ①9月20日 名作映画傑作選「名匠×女優 その宿命的な出会い！」『浪華悲歌』『稲妻』145名
- ②9月21日 名作映画傑作選「名匠×女優 その宿命的な出会い！」『華岡青洲の妻』『愛の讃歌』142名
- ◇第10回大阪アジア映画祭 シンポジウム
- 3月12日 パネラー：バーナード・チョウリー（マレーシア・映画監督）、山本博之（京都大学地域研究統合情報センター）15名
- 大阪府教職員互助組合歴史セミナー
- 12月13日「両替商 銭屋佐兵衛～大坂商人のイエと経営～」八木 滋 150名
- 同志社女子大学講座「芸術の街・大阪」
- 3月1日 講演会200名、博物館ツアー42名
- 講演1「心地よく声を出すには～関西弁は喉に良い？オペラの歴史と発声について～」井上敏典氏（同志社女子大学）
- 講演2「作品を読み解くヒント～工芸意匠に込められた物語世界～」中野朋子
- 古文書講座「琉球使節が大坂にやってきた」
- ①3月7日55名、②3月14日54名、③3月21日53名、④3月28日60名 全て木土博成
- 考古学入門講座「なにわ考古学散歩 上町台地北部に古代の痕跡を求めて」
- ①4月5日「難波宮から難波津」豆谷浩之 28名
- ②4月12日「難波宮中心施設とその広がり」大庭重信（大阪市博物館協会）25名
- ③4月19日「四天王寺周辺」村元健一 28名
- ④4月27日「難波京朱雀大路沿いの古代遺跡」寺井誠 28名
- 館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」
- ①2月20日「大坂町人が好んだ陶磁器」松尾信裕 89名
- ②2月25日「中世大阪の古道を求めて」大澤研一 197名
- ③3月13日「歴史系博物館での建築の展示をめぐる」酒井一光 108名
- 連続講座「弥生・古墳時代の日本列島と東アジア」
- ①2月18日「漢の辺境支配—武帝期を中心に—」村元健一 205名
- ②2月25日「楽浪郡と東夷社会」寺井 誠 194名
- ③3月11日「伽耶・百済と倭国」寺井 誠 188名
- ④3月18日「新羅・高句麗と倭国」寺井 誠 195名
- 見学会
- ◇大阪町あるき2014～紀州・住吉街道をあるく～伊藤純、八木滋
- ①5月25日「堺～住吉コース」40名
- ②6月1日「住吉～大坂コース」36名
- ◇建築史探偵団「建築家とその作品を巡る」酒井一光、船越幹央
- ①2月22日「本町～難波付近を歩く」34名
- ②2月28日「近江八幡を歩く」30名
- 連携展示「『はかる』の歴史」ギャラリートーク
- 3月13日 木土博成、嘉数次人（大阪市立科学館主

任学芸員) 9名

●雅楽鑑賞会

3月29日 212名

特別展・特集展示・講演会・展示解説など

◇特別展「上方の浮世絵 大坂・京都の粋と技」

- ・4月27日 オープニングコンサート「第25回うえまちコンサート」110名
- ・4月29日 講演会「上方浮世絵の世界」96名
- ・展示解説 4月25日20名、5月2日20名、5月9日30名

◇特別展「大阪遺産難波宮 遺跡を読み解くキーワード」

- ・6月29日 館長による講演会「聖武天皇と難波宮」柴原永遠男 234名
- ・7月5日 記念シンポジウム「難波宮発掘、その可能性の中心」参加者：相原嘉之氏（明日香村教育委員会文化財課）、網伸也氏（近畿大学文芸学部文化・歴史学科教授）、箱崎和久氏（奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長）、積山洋（大阪文化財研究所学芸員）、司会：李陽浩 145名
- ・見学会「初期の調査地点を巡るツアー」7月25日36名、8月1日28名
- ・難波宮博士による展示解説 7月27日八木久栄氏（元大阪市文化財協会）40名、8月3日長山雅一氏（流通科学大学名誉教授）44名、中尾芳治氏（元帝塚山学院大学教授）55名
- ・展示解説 6月28日40名、7月12日27名、7月21日58名、8月9日29名、8月16日65名

◇特別展「村野藤吾 やわらかな建築とインテリア」

- ・9月6日 講演会「村野藤吾の建築」講師：笠原一人氏（京都工芸繊維大学助教）、橋寺知子氏（関西大学准教授）150名
- ・9月23日ワークショップ&トークショー 第1部ワークショップ講師：伊達伸明氏（美術家）33名、第2部トークショー出演者：伊達伸明氏、BMC（ビルマニアカフェ）：高岡伸一氏、阪口大介氏、夜長堂井上タツ子氏、川原由美子氏、岩田雅希氏）162名
- ・10月4日 座談会「村野藤吾と大阪の文化を語る—建築・アート・まちなみ—」参加者：石田潤一郎氏（京都工芸繊維大学教授）、中山勉氏（株式会社近鉄ホテルシステムズ専務取締役）、橋爪節也氏（大阪大学総合学術博物館館長）、福原和則氏（大阪工業大学教授）、司会：酒井一光 127名
- ・10月11日 講演会「次世代に伝えたい村野藤吾の可能性」講師：木下直之氏（東京大学教授）213名
- ・展示解説 9月7日35名、9月14日80名、10月5日80名、10月12日90名

◇特別展「お守り刀展覧会×二次元 vs 日本刀展」

- ・10月31日プレ講座「関西の刀剣史を歩く」内藤直子 51名
- ・お守り刀ファッションショー 11月1日150名、11月2日720名
- ・サイン会 11月23日夢路キリコ氏 66名、12月21日開田裕治氏 72名

- ・11月29日記念フォーラム「日本刀の生き残りをかけて With 添田一平サイン会」パネリスト：川崎晶平（刀匠）、高見國一（刀匠）、月山貞伸（刀匠）、木下宗風（装剣金工・刀身彫刻師）、坪内哲也（全日本刀匠会事業部）、スペシャルゲスト：添田一平氏（イラストレーター）、コーディネーター：木村麻子氏（社団法人全日本伝統文化後継者育成支援協会代表）、司会：内藤直子 55名

- ・12月6日 月山貞利刀匠による「お守り刀展覧会」解説 50名

◇特集展示「なにわと朝鮮半島」

- ・展示解説 5月10日19名、5月31日24名

◇特集展示「意匠を読み解く 小袖の魅力」

- ・6月27日 講座「小袖の魅力、小袖の見方」54名
- ・展示解説 6月21日30名

◇特集展示「河内平野の弥生王墓」

- ・8月9日 講演会「加美遺跡で見つかった弥生王墓の謎にせまる」田中清美氏（大阪文化財研究所学芸員）71名
- ・展示解説 7月19日4名、8月23日12名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2014」

- ・10月26日「大阪の歴史を掘る2014」講師：李陽浩、安村俊史氏（柏原市立歴史資料館館長）57名
- ・展示解説 9月13日15名、9月27日12名、10月18日8名、10月25日0名、11月1日5名

◇特集展示「両替商 銭屋佐兵衛」

- ・11月23日 シンポジウム「両替商 銭屋佐兵衛」報告：逸身喜一郎氏（逸身家当主、東京大学名誉教授）、小松愛子氏（東京大学特任助教）、須賀博樹氏、吉田伸之氏（東京大学名誉教授）90名
- ・12月6日 現地見学会「銭佐の跡を歩く」26名
- ・展示解説 11月8日6名、11月16日49名、11月22日15名、12月14日36名、1月5日37名

◇特集展示「月岡雪鼎とその一門—大坂の肉筆浮世絵—」

- ・展示解説 1月10日25名、1月17日23名

◇特集展示「大阪相撲れきはく場所」

- ・展示解説 3月8日25名、3月15日15名、3月21日15名、3月22日30名

●展示解説

特別展に伴う展示解説	参加者合計763名
特集展示に伴う展示解説	参加者合計405名
常設展示に伴う展示解説	参加者合計1,512名

“なにわ歴博”わくわく子ども教室事業

- ①和銅開珎の拓本でしおりをつくろう 4～9月の毎月第1土曜日 午後2時～午後4時 全6回 計179名
- ②手作りおもちゃで遊ぼう 毎月第1・3土曜日（1月は第3のみ）全23回 計1,825名
- ③綿くり・糸つむぎ体験 7月26日、8月9日 全2回 計115名
- ④むかしの瓦の拓本体験 10～3月の毎月第1土曜日 午後2時～午後4時 全6回 計111名
- ⑤考古学者になってみよう 9月27日10名、10月25日11名、11月8日9名、11月22日9名

⑥ 凧づくりと凧あげ 1月10日 16名

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000点の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書・館内展示情報検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーも用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットや「なにわ歴史塾映像の間 作品ご案内」（年4回）の作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、特集展示などに合わせて、「絵本にまつわるエトセトラ」（4/2～5/12）、「大阪検定2014」（5/14～7/7）、「夏休み子ども特集」（7/9～9/1）、「ようこそトイレの世界へ」（9/3～10/12）、「世界遺産の旅～なにわ歴史塾で世界一周～」（10/15～12/1）、「冬の特集 名作発掘！大河ドラマと大阪の映画」（12/3～3/30）の6回の特集を企画し、関連書籍を配架した。26年度の入室者数は28,857名、書庫出納件数は192件、複写利用件数は780件であった。

なにわ歴史塾 映像コーナーの改修

老朽化により機器の故障が目立った映像コーナーを改修し、平成27年3月11日より新しいシステムに移行した。新システムでは、アンドロイド端末（20インチ）を3台設置し、それぞれの端末で、既存の映像コンテンツ109本の視聴だけでなく、都市工学情報センター旧蔵の歴史写真約7,000枚のデジタル画像（「昔の大阪」写真ライブラリー）を閲覧できるようにした。それとともに、コーナー名を「映像の間」から「目で見える大阪コーナー」（英語名 Video and Photo Library）へと改称した。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校教員を対象とする研修会への学芸員を派遣するとともに、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、大学からの博物館実習の受け入れを行った。

●学校職員の研修の受入

◇大阪市教員研修（主催：大阪市教育センター）

対象：大阪市立学校園教職員30名

8月8日 「難波宮と古代大阪」「8階展示の活用」

●学校団体（小中学校及び高等学校）への教育支援および職業体験の受入

7月10日 大阪府立高津高等学校7名 職場訪問

9月5日 大阪市立天満中学校29名 職業講話・見学

11月13日・14日 大阪市立東中学校2名 職業体験

11月14日 大阪市立天満中学校 職業講話（派遣）

11月20日・21日 大阪市立咲くやこの花中学校2名 職業体験

2月5日・6日 大阪市立真住中学校2名 職業体験

●考古学体験教室

これまで実施してきた体験発掘に代わり、今年度は大阪文化財研究所と連携し「考古学体験教室」を開催した。博物館を会場とし、「瓦の拓本」「土器の接合」「AR 難波宮を使った遺跡見学」を行った。実施に当たっては小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。今年度は、平成26年11月10日～13日の期間中、市内5校、273名の児童たちを受け入れた。

博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は12大学43名を受け入れた。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

◇8月25日～29日 大阪大学18名、京都橘大学1名、甲南女子大学1名、同志社大学2名

◇9月1日～5日 大阪市立大学9名、関西学院大学2名、佛教大学2名、奈良大学4名、立命館大学1名、大谷大学1名、桃山学院大学1名、帝塚山学院大学1名
見学実習は近畿大学、甲南女子大学ほかから計490名を受け入れた。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとしてボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。平成26年度のボランティア登録者数は195名。活動日は休館日を除く毎日で、日数は305日間、延べ活動人数は5,641人であった。

各グループの活動

◇遺跡探訪・歴史を掘る班

（活動者79名 延べ活動人数2,451名）

前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーの解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーで再現された遺跡を使って学習プログラムの案内や説明を行った。5月5日と11月3日の「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」の実施に当たっては延べ6名が、5月6日と11月2日の「石組水路の一般公開」に当たっては延べ4名が協力した。

◇スタンプラリー・ハンズオン班

（活動者116名 延べ活動人数3,190名）

10・9・7階の展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら見学する子ども向けスタンプラリーを実施している。また常設展示場内で体験型事業（ハンズオン）を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。ハンズオンは以下の6種類である。

- 10階：大宮人になってみよう！（奈良時代の官人の服を着る体験）／大極殿の土台をつくってみよう！（大極殿基壇を組み立てる立体パズル）
- 9階：両替商になってみよう！（江戸時代の両替商を体験）／投扇興に挑戦！（的に扇を投げて点数を競う遊び）
- 7階：大阪名所双六をやってみよう！（明治時代の双六で遊ぶ）／きものを着てみよう！（昔の着物を着る体験）

●研修

- 7月12日「投扇興研修」 21名
- 8月5日「特別展『大阪遺産 難波宮』の見学研修」 72名
- 12月2日・6日「館外研修「奈良町」見学研修」 81名
- 1月27日・31日「AR 難波宮使用研修」 56名
- 3月14日・17日「継続研修（講演会、避難経路）」 170名

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意志疎通を円滑にし、よりよいボランティア活動を推進していく目的で、3月14日・17日に意見交換会を開催した。

●平成26年度ボランティアの継続と新規募集

平成26年度に活動したボランティアの任期は、平成27年3月末までの1年間であった。次年度以降の継続意思を確認したところ、活動を希望するボランティアが183名となったため、新たにボランティアの募集を行った。50名程度の募集に対し、60名の応募があり、書類審査ならびに2月、3月にかけての各班4日ずつの事前研修を経て、53名を登録予定者とした。

その他の連携事業・「大阪歴史博物館友の会」との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館・動物園等の9施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。8年目になる本年は、前年に続き大阪市博物館協会事業企画課による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアムウィークス大阪2014「大坂の陣400年」

期間：10月1日（水）～11月3日（月・祝）

本年は「大坂の陣400年」という節目の年にちなみ、各施設がさまざまな切り口で展示等を行い、当館は常設展示9階で「大坂冬の陣直前に隠し埋められたお宝」と題した展示で参画した。アンケート回答者に『大阪てくてくミュージアム手帖2014』をプレゼントした。

●ミュージアム連続講座「大坂の陣とその時代」

連携する各施設と大阪市立大学の専門家が、大坂の陣とその時代を多様な視点で紹介した。難波市民学習センターにおいて、1月30日（金）から3週連続で1日2講座（計6講座）開催し、当館からは2日目に松尾信裕が「大坂出土の桃山陶磁」と題して講演した。

●OSAKA MUSEUMS CARD COLLECTION

ポストカードの作成・配布

連携する各施設の館蔵品などをモチーフに、ペーパー

クラフトとしても楽しめるポストカード9枚1組を作成した。当館では、2月21日（土）から学芸員による展示解説の参加者にプレゼントを行った（平成27年5月6日終了予定）。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館協会の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、今年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪府教育センター附属高校・大和川高校、大阪市立咲くやこの花高校が会員となり、年間利用者は順に281名、337名、4名、14名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館協会が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に参加した。本協定にもとづき市大開講の博物館関連講義へ下記学芸員を派遣した。

- ・博物館経営論：大澤研一
- ・博物館資料保存論：豆谷浩之、寺井誠
- ・博物館展示論：伊藤純、大澤研一、豆谷浩之、酒井一光、八木滋

包括連携協定企画の下記2事業に下記学芸員を派遣した。

◇11月17日 博学連携講座「上町台地2000年一土地に刻まれた歴史をさぐる」杉本厚典

◇2月22日 シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅱ」村元健一

館独自の連携事業としては下記を実施した。

◇研究プロジェクトへの派遣

大阪市立大学平成25年度戦略的研究「豊臣大坂城・城下町の総合的研究」松尾信裕、大澤研一

●関西大学大阪都市遺産研究センターとの連携（共催事業）

◇「写真展 大阪のてっぺん 能勢の文化遺産—大阪歴史博物館所蔵 三村幸一撮影写真から—」12月17日～1月2日 浄るりシアター 入場者2800名

●同志社女子大学との連携（共催事業）

◇3月1日 同志社女子大学講座「芸術のまち・大阪」中野朋子 講演会200名、博物館ツアー42名

その他の連携事業

●大念佛寺との共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し、文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、本年も大念佛寺宝物館（平野区）との共催で「平野と大念佛寺展」を開催した。5月1日～5日 入場者2,537名

●上町台地歴史講座

上町台地を活動の場とするNPO法人まち・すまいづくりとの連携・共催し、特別展「上方の浮世絵」協賛オープニングコンサートとして「第25回うえまちコンサート ハンブルクに始まる17世紀バロックの群像」を開催した。

◇うえまちコンサート（第25回）

- ・共催：日本テレマン協会 4月27日 110名
- ・特別展解説：澤井浩一（大阪市博物館協会）

●大阪市立科学館・大阪市立中央図書館との連携展示

1月28日～3月23日 テーマ展示「「はかる」の歴史」
木土博成

らし」杉本厚典 93名

NHK 地下石組み遺構特別公開 16名

特別展「大阪遺産 難波宮」解説ツアー 18名

ステージ・ワークショップ他 参加者 2,722名

共催事業

●上方西洋音楽演奏会シリーズ 2014 『和洋の再会』

①6月18日 能楽ワークショップ「能楽を楽しむ第一歩」5名

②6月19日 歌声ワークショップ「和洋の声と歌」21名

③6月23日 笛のワークショップ・公開リハーサル「世界の鳴楽器」16名

●第30回歴史学入門講座

7月26日「歴史研究の課題を発見する一戦後歴史学の再検証」平川 新氏（宮城学院女子大学学長）91名

●難波宮フェスタ！ 2014

7月28日

難波宮講演会「難波宮をとりまく自然環境と人々の暮

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」では、平成22年度より、幹事会をはじめとした会員による自主運営化にむけた作業を進めてきた。その結果、平成26年3月15日に行われた臨時総会において平成26年度から友の会の自主運営移行について確認が行われた。

これにより、これまで当館が事務局として携わってきた会の運営は、平成26年4月から幹事会を中心にした運営に移行した。当館が会の運営には直接関与しないものの、役員（副会長、顧問）への就任や幹事会での助言、見学会等への講師派遣（21頁参照）など、友の会との連携は引き続き継続している。なお、平成26年度の会員数は280名（家族会員を含む）である。

平成26年度 普及関連事業の回数（日数）と参加人数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	シンポジウム等	1	95
	講座・見学会その他	59	5,087
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	59	3,914
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	42	2,285
	石組み水路公開・AR 難波宮	4	217
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	1,824	13,799
学校連携事業	学校職員の研修の受入	1	30
	教育支援および職業体験	10	42
	考古学体験教室	4	273
	博物館実習・見学実習の受け入れ	10	43
地域・その他連携事業	共催事業	7	3,120
ボランティア関連事業	研修	8	400
合計		2,029	29,305

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展関係が292件、特集展示関係が195件、館全体に関する内容・その他が91件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定表（1回）・英語版年間展示予定表（1回）・なにわ歴博カレンダー（50～53号）を発行した。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開

催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに433,635件（累計4,026,008件）、1日平均1,188件のアクセスがあった（前年度比で約94%）。また、1日の最大接続件数は1,188件（11月3日）であり、概ね特別展の開催期間や行楽シーズンに合わせてアクセスが増加する傾向がある。また、そのほかの各種普及事業に関わる案内をすべて掲載した。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴博ブログ」・「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

●Twitterの開始

本年度11月より、Twitterにて館の公式アカウントを開設し情報発信を開始した。平成27年3月末現在、ツイート数は232、フォロワー数は427である。

その他の広報宣伝事業

●なにわ歴博新聞

年に4回、小学校高学年と中学生を対象とした「なにわ歴博新聞」を発行した。入館時に小中学生全員に手渡す配布方式をとった。3か月ごとの刊行で、B4版両面印刷、各号12,000部で、第29から32号までを発行した。この媒体を通して特別展等の案内、大阪ゆかりの人物紹介（なにわ人物誌）、わくわく子供教室等の案内を行った。

●関西文化の日への参加

平成26年度も「関西文化の日」への参加を行った。11月15日（土）、16日（日）の2日間について常設展示の観覧料を無料とした。2日間で計3,630名の観覧者があった。

刊行物

平成26年度は下記3件を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要 第13号』

A4版224ページ 平成27年2月

●『大阪歴史博物館館蔵資料集11』

初代中村鴈治郎関係資料』

A4版95ページ 平成27年3月

●『共同研究成果報告書9』

A4版94ページ 平成27年3月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々への歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては3テーマ、基礎研究においては2テーマを実施した。また平成23年度から平成25年度にかけて行われた共同研究「高島多米治と下郷コレクション—余山貝塚—」の成果を『共同研究成果報告書9』に収録した。各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇高島多米治と下郷コレクションについて—岩手県瀬沢貝塚資料—

担当：加藤俊吾、外部研究員：八木勝枝氏（岩手県立博物館）、品川欣也氏（東京国立博物館）

◇大坂の両替商銭屋佐兵衛家の研究と展示

担当：八木滋、外部研究員：逸身喜一郎氏（東京大学名誉教授）、吉田伸之氏（東京大学名誉教授）、小松愛子氏（東京大学埋蔵文化財調査室特任助教）

◇前期難波宮の官衙遺構についての基礎的研究

担当：李陽浩、村元健一、寺井誠

●基礎研究

◇末永雅雄刀装具コレクションの基礎調査

担当：内藤直子

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之

文部科学省科学研究費補助金による研究

◇基盤研究（B）研究代表者：飯田直樹「『部落』対策事業として始まった大阪府方面委員制度の全国化とその限界についての研究」

◇基盤研究（C）研究代表者：寺井誠「日本列島における出現期の甌の故地に関する基礎的研究」

◇基盤研究（C）研究代表者：岩佐伸一「絵画制作者としての公家の基礎的研究—江戸時代中後期を中心に—」

◇挑戦的萌芽研究 研究代表者：飯田直樹「大阪における個別町・町内会機能の変容に関する研究：新たな近代都市論の構築をめざす」

個人の調査研究活動

●栄原永遠男

・専攻分野

(1) 日本古代経済史 (2) 正倉院文書 (3) 東大寺史

・著述

「難波宮跡西北部出土木簡再考」中尾芳治・栄原永遠男編『難波宮と都城制』吉川弘文館、平成26年8月
「経を写す」『国際企画展示 文字がつなく』古代の日本列島と朝鮮半島』国立歴史民俗博物館、平成26年10月

「日本における歌の表記—木簡と正倉院文書を素材として—」藤本幸夫編『日韓漢文訓読研究』勉誠出版、平成26年11月

「岩橋千塚と紀直」『和歌山地方史研究』66号、平成26年11月

「正倉院文書研究の現状と課題」『国立歴史民俗博物館研究報告』192集、平成26年12月

「大阪市立大学栄原ゼミにおける写経所文書研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』192集、平成26年12月

「奈良時代の阿弥陀悔過—「阿弥陀悔過知識交名」について—」続日本紀研究会編『続日本紀と古代社会—創立六十周年記念—』塙書房、平成26年12月

「岸俊男の政治史研究」『日本歴史』800号、平成27年1月

「聖武天皇の印南野行幸と難波宮の造営」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

「写経生をとりまく衛生環境」『50年のあゆみ』公益財団法人日本応用酵素協会、平成27年3月

「奈良三銭（和同開珎・万年通宝・神功開宝）の存在形態」『出土銭貨』35号、平成27年3月

・口頭発表

「写経所文書中の異分子」奈良女子大学古代学学術研究センター講演会、奈良女子大学、平成26年4月

「写経生をとりまく衛生環境」公益財団法人日本応用酵素協会設立50周年記念式典特別講演、ホテル阪急インターナショナル（大阪）、平成26年5月

「聖武天皇と紫香楽宮—聖武天皇はなぜ奈良にもどってきたか?—」敬文舎講演会、東大寺総合文化セン

ター、平成 26 年 5 月

「つながる「えにし」山根先生を偲ぶ会、湖陽樹、平成 26 年 7 月

「日本最古の銭貨とは何か」平成 26 年度姫路市市民教養講座、姫路市市民会館、平成 26 年 7 月

「お経をなぜ、どのように写すのか？—千部法華経を例として—」続・古典を読む歴史と文学 いま明かされる古代 35 正倉院文書連続講演、一般社団法人長野教育文化振興会、金鶏会館、平成 26 年 8 月

「公慶上人の東大寺復興（東大寺の成立過程 3）」平成 26 年度東大寺指導者講習会、東大寺本坊、平成 26 年 9 月

「お経をどのように写すのか？—正倉院文書の正体—」講座 ここがおもしろい！正倉院文書、ギャラリーよみうり、平成 26 年 10 月

「天平の時代—正倉院を中心に—」平成 26 年三郷公民館活動推進委員会企画「歴史講座」、守口市立三郷公民館、平成 26 年 10 月

「日本古代における華嚴経関係經典の受容と普及」BK21PLUS 海外碩学招請特演、韓国成均館大学 600 周年記念館、平成 26 年 11 月

「古代の和泉国—国境の緊張と交流—」泉大津市文化フォーラム、テクスピア大阪、平成 26 年 11 月

「華嚴経関係經典の受容と普及」2014 年度龍谷大学仏教学科仏教学特別講座「華嚴」、龍谷大学大宮学舎、平成 26 年 12 月

「難波宮とはどのような都か？」大阪行政相談委員協議会研修会、大阪歴史博物館講堂、平成 27 年 2 月

「紫香楽宮とその時代」向日市教育委員会・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター長岡宮発掘 60 周年連続講座、向日市民会館、平成 27 年 2 月

●伊藤廣之

・専攻分野

- (1) 日本民俗学 (2) 環境民俗論、都市民俗論
- (3) 淀川における河川漁撈の研究、大阪の巨樹信仰の研究

・著述

「コペンハーゲンに残る明治初期の蒔絵の人力車」『魅せる！超フォークロア—近藤雅樹ワールドの探検—』近藤雅樹追悼企画実行委員会、平成 26 年 12 月

「環境民俗学の視点と河川漁撈研究」『大阪歴史博物館研究紀要』第 13 号、平成 27 年 2 月

「花見はいつから始まったのか？—花を愛でる心と季節感—」『知って役立つ民俗学—現代社会への 40 の扉—』ミネルヴァ書房、平成 27 年 3 月

・口頭発表

「小島勝治と『布施町誌続編』—小島勝治・横井照秀往復書簡を手がかりに—」近畿民俗学会 10 月例会、平成 26 年 10 月

●大澤研一

・専攻分野

- (1) 日本中世史 (2) 都市史、宗教史

- (3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

・著述

「文献史料からみた豊臣前期大坂の大名屋敷・武家地」『大阪歴史博物館研究紀要』第 13 号、平成 27 年 2 月
「上町に向かう道 紀州街道 2～8、古堤街道 1～3」『うえまち』No. 109～120 平成 26 年 4 月～27 年月

●松尾信裕

・専攻分野

- (1) 日本考古学 (2) 中近世都市遺跡の研究
- (3) 城下町をはじめとする中世から近世の都市の構造や形成過程の研究

・著述

「古代難波の地形環境と難波津」中尾芳治・栄原永遠男編『難波宮と都城制』吉川弘文館、平成 26 年 8 月
「豊臣時代の伏見城下町と大坂城下町」『大阪歴史博物館研究紀要』第 13 号、平成 27 年 2 月

「大坂城」仁木宏・福島克彦編『近畿の名城を歩く 大阪・兵庫・和歌山編』吉川弘文館、平成 27 年 3 月

・口頭発表

「近世城下町の変遷と松江城下町」平成 25 年度第 1 回松江市史講座、松江市総合文化センター、平成 26 年 4 月

「大坂城と大坂城下町の発掘について」NPO 法人新しいちよう大学校開講記念特別講演会、パル法円坂、平成 26 年 8 月

「中近世都市の一類型—久宝寺寺内町と周辺都市—」八尾市立歴史民俗資料館講座、八尾市立歴史民俗資料館、平成 26 年 10 月

「大坂城周辺の堀状遺構」『中近世都市の堀状遺構について』2014 年関西近世考古学研究会大会、大手前大学、平成 26 年 12 月

「豊臣氏大坂城の歴史をたどる」住民大学講座「大坂の陣 400 年」、平野区画整理記念会館、平成 27 年 2 月

「大坂出土の桃山陶磁」ミュージアム連続講座「大坂の陣とその時代」、難波市民学習センター、平成 27 年 2 月

「織豊期城下町の出現と展開」（公財）和歌山県文化財センター公開シンポジウム「和歌山城と城下町の風景」、イオンモール和歌山イオンホール、平成 27 年 3 月

●豆谷浩之

・専攻分野

- (1) 日本近世史、近世考古学 (2) 近世都市史
- (3) 大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

・著述

「なにわの考古学最前線⑥ 大阪中之島蔵屋敷の考古学 地下から現れた「天下の台所」」『大阪春秋』156 号、新風書房、平成 26 年 10 月

「大阪出土の植木鉢について」『大阪文化財研究所研究

紀要』16号、平成27年2月

・口頭発表

「難波京その後」第9回都城制研究会、奈良女子大学、平成27年2月

●松本百合子

・専攻分野

- (1) 考古学 (2) 仏教美術史、近世製油業の研究
- (3) 近世貿易陶磁の研究

●酒井一光

・専攻分野

- (1) 建築史 (2) 歴史的建造物に関する研究
- (3) 近代建築・寺社建築

・著述

「再読関西の近代建築 聖母女学院」『建築と社会』第1105号、日本建築協会、平成26年4月

「日本建築協会設立の頃 第五回内国勸業博覧会から「大大阪」の誕生へ」『近畿の産業遺産』第8号、近畿産業考古学会、平成26年5月

「村野藤吾の建築とインテリア 輸出繊維会館とシェラトン都ホテル大阪」『近畿文化』第778号、近畿文化会、平成26年9月

「城郭・寺社のかたち」『大阪名所図解』、140B、平成26年9月

「西宮近代建築案内」『大阪春秋』157号、新風書房、平成27年1月

「建築の襷をつくる」『藤原都三と環境陶芸』、藤原陶房、平成27年2月

「再読関西の近代建築 大阪能楽会館」『建築と社会』第1115号、日本建築協会、平成27年2月

「新タイル建築探訪」『タイルの本』77・79・81・83・85・87号、タイルの本編集室株式会社、平成26年5・7・9・11月、27年1・3月

「村野藤吾のタイルの技法に関する一考察」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

●杉本厚典

・専攻分野

- (1) 日本考古学
- (2) 弥生土器・土師器の編年研究、GIS考古学

・著述

「三角縁神獣鏡の同型鏡の共伴関係とネットワークの視覚化」『日本情報考古学会講演論文集』Vol.13 (通巻33号)、平成26年9月

「三角縁神獣鏡・短甲の分布図から畿内と地方の関係を読み取る試み」『日本情報考古学会講演論文集』Vol.14 (通巻34号)、平成27年3月

「〈事例報告〉河内地域」(共同執筆)『集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』、古代学研究会、平成26年12月

・学会発表

「三角縁神獣鏡の同型鏡の共伴関係とネットワークの視覚化」日本情報考古学会第33回大会、東京農工大

学小金井キャンパス、平成26年9月

「三角縁神獣鏡・短甲の分布図から畿内と地方の関係を読み取る試み」日本情報考古学会第34回大会、大阪大学 豊中キャンパス、平成27年3月

・口頭発表

「難波宮をとりまく自然環境と人々の暮らし」第8回難波宮フェスタ!、大阪歴史博物館、平成26年7月

「原始・古代の大阪湾岸における集落と都市」大阪市立大学公開講座博学連携講座「上町台地2000年—土地に刻まれた歴史をさぐる」第2回、大阪市立大学文化交流センター、平成26年11月

「〈事例報告〉河内地域」(共同発表)『集落からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』、古代学研究会、大阪歴史博物館、平成26年12月

●加藤俊吾

・専攻分野

- (1) 考古学・考古学史 (2) 金属器生産に関わる研究
- (3) 古代～近世における鏡研究

・著述

「高島多米治と余山貝塚」『共同研究成果報告書』9、大阪歴史博物館、平成27年3月

●李陽浩

・専攻分野

- (1) 建築史、都市史 (2) 東アジア古代建築史
- (3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

・著述

「前期・後期難波宮の「重なり」をめぐって」『特別展大阪遺産 難波宮』大阪歴史博物館、平成26年6月

「古代東アジアにおける八角形建物とその平面形態：前期難波宮東・西八角殿研究への予察」中尾芳治・栄原永遠男編『難波宮と都城制』、吉川弘文館、平成26年8月

「前期難波宮東・西八角殿における柱高の復元的考察」『日本建築学会大会学術講演梗概集、建築歴史・意匠2014』、平成26年9月

・口頭発表

「前期難波宮東・西八角殿における柱高の復元的考察」日本建築学会大会(近畿)、神戸大学、平成26年9月13日

「難波長柄豊碕宮の先進性と在来性」特別展・特別陳列「飛鳥宮と難波宮・大津宮」研究講座、橿原考古学研究所附属博物館、平成26年11月23日

●飯田直樹

・専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 日本近現代史
- (3) 都市大阪をフィールドにした地域社会構造史(近代都市史)と社会事業史

・著述

「大阪相撲発祥の地 堀江」国立文楽劇場営業課編『第一三六回＝開場三十周年記念 文楽公演プログラム』、平成26年11月

「明治前期大阪における家屋敷売買と町による規制」
『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月
「歴史Ⅱ(第52回部落問題研究者全国集会の報告)」『人権と部落問題』867、平成27年2月
「新たに発見された北丹後地震災害絵葉書と博物館展示」『京都歴史災害研究』第16号、平成27年3月
(分担執筆)『和泉市の歴史4 信太地域の歴史と生活』
(和泉市)、平成27年3月
(監修)北野地域誌『北野グラフィティ』(大阪市北区
北野連合振興町会)、平成27年2月

●口頭発表

「「部落」対策事業としての大阪府方面委員制度一創設期を中心に」科研費「近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関する総合的研究」研究会、社団法人部落問題研究所、平成26年8月
「大阪相撲の歴史について」大阪土佐堀クラブ3月例会、大阪YMCA会館、平成27年3月

●その他

平成26年度文化庁図書館等職員著作権実務講習会修了(第K006号)、平成26年11月

●伊藤 純

●専攻分野

(1) 日本の歴史

●著述

「幻の難波宮から実在の難波宮に一山根徳太郎の執念と情熱」『特別展大阪遺産 難波宮』大阪歴史博物館、平成26年6月

「お祭り見てある記 第1回 綱引神事」『たかきや倶楽部通信』38、高津宮社務所、平成26年秋

「難波宮址初期発掘史をふりかえる一理系分野との連携・遺構の認識などを中心に」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

「お祭り見てある記 第2回 諏訪神社の獅子舞」『たかきや倶楽部通信』39、高津宮社務所、平成27年春

●その他

〔大阪写真月間2014 写真家150人の一坪展〕に「しょんべん横丁 2009年6月18日」出品 ビジュアルアーツギャラリー 平成26年5月25日～31日

●内藤直子

●専攻分野

(1) 美術史 (2) 刀装具を中心とした日本の工芸研究

●著述

「ある刀工の足跡を追って一有栖川宮に仕えた刀工・桜井正次と関西」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

●調査研究活動等

堺市水野鍛錬場 桜井正次刀匠関係調査、

平成27年6月

京都園福寺 桜井正次刀匠関係資料調査、

平成27年6月

大阪大学医学部人体模型調査、平成27年3月13日

甲冑取扱講習会(3月16日・17日 於東京国立博物館)

への参加と運営補助

●岩佐伸一

●専攻分野

(1) 美術史 (2) 日本絵画史
(3) 江戸時代後期の上方絵画

●調査活動

墨江武禪、林閨苑をはじめとする近世大阪画人作例調査(大阪市個人宅ほか)、平成26年4月～平成27年3月

江戸時代の公家が制作した絵画調査(京都市個人宅ほか)、平成26年4月～平成27年3月

国文学研究資料館国文学文献資料調査(津市立図書館稲垣文庫)、平成26年8月

●寺井 誠

●専攻分野

(1) 考古学
(2) 弥生～飛鳥時代の日本列島と朝鮮半島の交流史
(3) 日本列島出土の朝鮮半島系甌の故地解明

●著述

「土師器甕を加工した甌一渡来文化受容の一事例」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

●口頭発表

「難波と百済」住吉かなえ会、市民交流センター住吉北、平成26年5月

「当て具痕跡の地域性に関する研究展望と課題」都城制研究会、平成26年6月

「外交の窓口から倭国の首都へ一遷都前後の難波」翠曜塾、平成26年7月

●調査活動

科学研究費補助金(基盤研究(C)25370902「日本列島における出現期の甌の故地に関する基礎的研究」)により、岡山県、鳥根県、福岡県、韓国忠清道及び慶尚北道などで資料調査を行った。

●木土博成

●専攻分野

(1) 日本近世史 (2) 政治史
(3) 参勤交代、琉球使節、鎖国

●著述

「島津氏の参勤に対する大坂「船除」」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

●口頭発表

「〈朝鮮・琉球〉という範疇—いわゆる「通信国」の前史を求めて—」日本史研究会近世史部会、平成26年6月

「島津氏の参勤に対する大坂川筋「船除」」大阪歴史学会近世史部会、平成26年9月

●船越幹央

●専攻分野

(1) 日本文化史
(2) 近代都市における市民生活・文化・意識の研究

(3) 大阪・京都を中心とした市民文化の研究

● 著述

「近代大阪の経済人たち」『大阪春秋』154号、平成26年4月

「戎橋筋商店街の近現代史」『戎橋とともに400年 なんば戎橋筋商店街100周年記念誌』戎橋筋商店街振興組合、平成26年7月

「大阪歴史博物館所蔵 昭和初期の8mmフィルムについて」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

に関する試論」(柳本照男氏との共訳)『古文化談叢』第72集、平成26年8月

(翻訳) 齊東方著「中国都城の立地環境—長安から洛陽へ—」『都城制研究』9、平成27年3月

(共訳) (大庭脩監修 漢書百官公卿表研究会)『漢書百官公卿表訳注』朋友書店、平成26年11月

● 口頭発表

「前期難波宮と唐の太極宮」シンポジウム「大化改新と難波宮Ⅱ」大阪市立大学、平成27年2月

● 中野朋子

● 専攻分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 上代裂の文様研究、近世服飾史、結髪史
- (3) 近世後期の京坂における服飾・風俗動向、特に結髪を中心とした女性のよそおい文化についての調査研究。

● 著述

「袋切表具切之控一鴻池家における名物裂の蒐集と利用」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

● 八木 滋

● 専攻分野

- (1) 日本近世史 (2) 流通社会史、都市史
- (3) 市場社会、両替商、都市開発

● 著述

「江戸時代の戎橋とその周辺」『戎橋とともに400年 なんば戎橋筋商店街100周年記念誌』戎橋筋商店街振興組合、平成26年7月

「新しく発見された道頓堀関係史料について」『ヒストリア』245、平成26年8月

「熊本藩国産明礬と錢佐」史料解題 石灰町水帳絵図／石灰町家持借家人別帳 逸身喜一郎・吉田伸之編『両替商 錢屋佐兵衛』東京大学出版会、平成26年10月

「近世道頓堀関係史料—遠藤亮平・安井洋一氏所蔵文書—の紹介」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

● 口頭発表

「17世紀道頓堀の都市開発と空間～西道頓堀南側を中心に～」近世大坂研究会「円座：道頓堀の社会＝空間構造と芝居」大阪市立大学、平成27年3月

● 村元健一

● 専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 古代の日中交渉
- (3) 難波宮と中国都城の比較研究

● 著述

「前期難波宮の南方空間」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、平成27年2月

「難波宮の立地環境」『都城制研究』9、平成27年3月 (翻訳) 王志高著「韓国ソウル風納土城の3つの問題

平成26年度大阪歴史博物館入場者数

月	平成26年度 常設展					平成26年度 特別展					合計	その他入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	9,618	615	10,233	5,098	15,331	1,185	99	1,284	2,606	3,890	19,221	4,517
5	10,804	520	11,324	7,611	18,935	3,869	351	4,220	7,033	11,253	30,188	5,417
6	10,269	565	10,834	8,277	19,111	1,237	183	1,420	3,119	4,539	23,650	5,540
7	12,736	768	13,504	5,449	18,953	2,799	321	3,120	4,548	7,668	26,621	6,143
8	15,294	951	16,245	5,566	21,811	2,836	347	3,183	2,910	6,093	27,904	6,365
9	10,502	327	10,829	4,039	14,868	4,169	580	4,749	3,740	8,489	23,357	6,335
10	10,536	1,109	11,645	9,223	20,868	3,197	417	3,614	3,459	7,073	27,941	5,176
11	9,810	1,147	10,957	13,875	24,832	3,763	275	4,038	7,990	12,028	36,860	8,050
12	8,239	884	9,123	5,069	14,192	3,315	391	3,706	4,723	8,429	22,621	4,797
1	10,929	535	11,464	4,547	16,011	0	0	0	0	0	16,011	5,688
2	13,086	417	13,503	6,835	20,338	0	0	0	0	0	20,338	6,770
3	13,598	896	14,494	5,669	20,163	0	0	0	0	0	20,163	8,845
合計	135,421	8,734	144,155	81,258	225,413	26,370	2,964	29,334	40,128	69,462	294,875	73,643

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数、1階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

委嘱・派遣・視察

委嘱

期間	内容	担当者
平成25年 5月30日～27年 3月31日	明治大学大久保忠和考古学振興基金 下郷コレクション共同研究	加藤 俊吾

平成25年 8月 1日～27年 7月31日	香芝市教育委員会 香芝市文化財保護審議会委員	伊藤 純
平成25年11月 1日～27年10月31日	吹田市教育委員会 吹田市立博物館協議会委員	伊藤 廣之
平成26年度	姫路市 姫路市史編集専門委員	栄原永遠男
平成26年 4月 1日～28年 3月31日	甲賀市教育委員会 甲賀市文化財保護審議会委員	栄原永遠男
平成26年 3月20日～27年 3月19日	文化庁 文化審議会専門委員（文化財分科会）	栄原永遠男
平成26年 4月 1日～27年 3月31日	松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課 松江市史専門部会（松江城部会）委員	松尾 信裕
平成26年 4月 1日～27年 3月31日	甲賀市教育委員会甲賀市水口岡山城跡調査委員会の委員	松尾 信裕
平成26年 4月 1日～28年 3月31日	美浜町教育委員会 興道寺廃寺等調査指導委員会委員	栄原永遠男
平成26年 8月 7日～27年 3月31日	人間文化研究機構 国文学研究資料館 国文学研究資料館国文学文献資料特別調査員	岩佐 伸一
平成26年10月 1日～27年 3月31日	国土交通省近畿地方整備局 淀川河川事務所淀川資料館運営点検に関する懇談会委員	栄原永遠男
平成27年 3月10日～31日	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館「日本歴史のバックアップとメタ資料学の構築」協議・研究会	豆谷 浩之
平成27年 3月20日～28年 3月19日	文化庁 文化審議会専門委員（文化財分科会）	栄原永遠男

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
4/ 9	大阪市人事室（新採研修）	船越 幹央
4/19	喜連村史の会	豆谷 浩之
4/26	京都ユースホステル協会	船越 幹央
5/ 8	大阪商工会議所	船越 幹央
5/13	住友生命保険相互会社	船越 幹央
5/14	本願寺津村別院	大澤 研一
5/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
5/21	かなえ会	寺井 誠
5/23	NPO法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
5/23	大阪観光コンベンション協会	八木 滋
5/26	かなえ会	寺井 誠
6/ 7	国土交通省近畿地方整備局 淀川河川事務所	大澤研一・ 八木 滋
6/19	神戸市教育委員会	松尾 信裕
6/21	喜連村史の会	豆谷 浩之
6/23	かなえ会	村元 健一
6/26	かなえ会	李 陽浩
7/ 8	大阪経済法科大学	八木 滋
7/16	翠曜塾	村元 健一
7/19	喜連村史の会	豆谷 浩之
7/21	大阪市港区役所	八木 滋
7/23	翠曜塾	寺井 誠
7/27	大阪歴史博物館友の会	村元 健一
7/29	お守り刀展覧会運営委員会	内藤 直子
7/30	お守り刀展覧会運営委員会	内藤 直子
7/31	大阪府高等学校社会（地歴・公民）科研究会	加藤 俊吾
8/ 1	大阪府高等学校社会（地歴・公民）科研究会	豆谷 浩之
8/16	喜連村史の会	豆谷 浩之
8/25	新しいちよう大学校	松尾 信裕
9/ 4	加西市南部公民館	松本百合子
9/ 6	京都ユースホステル協会	船越 幹央
9/13	大阪商業大学商業史博物館	伊藤 純
9/13	（公社）大阪府建築士会	酒井 一光
9/18	大阪市人事室	大澤 研一
9/19	TKC近畿大阪会	伊藤 純・ 飯田 直樹
9/20	喜連村史の会	豆谷 浩之
9/22	近畿文化会	酒井 一光
9/26	NPO法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
10/ 9	神戸市教育委員会	松尾 信裕
10/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
10/18	（公財）八尾市文化財調査研究会	松尾 信裕
11/ 2	大阪市都市整備局	酒井 一光
11/ 5	NPO法人シニア自然大学校	村元 健一
11/14	大阪市立総合生涯学習センター	八木 滋
11/15	喜連村史の会	豆谷 浩之

日付	派遣先	担当者
11/17	公立大学法人大阪市立大学	杉本 厚典
11/18	明石シニアカレッジ	村元 健一
11/23	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	李 陽浩
12/ 8	日本放送協会	船越 幹央
12/11	大阪市人事室	船越 幹央
12/13	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
12/15	（公財）和歌山県文化財センター	松尾 信裕
12/20	喜連村史の会	豆谷 浩之
1/16	本町橋100年会	船越 幹央
1/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
1/17	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
1/19	高松市教育委員会	李 陽浩
1/25	京都ユースホステル協会	船越 幹央
2/ 6	平野区画整理記念会館	松尾 信裕
2/ 6	大阪行政相談委員協議会	栄原永遠男
2/11	奈良女子大学古代学学術研究センター	豆谷 浩之
2/28	喜連村史の会	豆谷 浩之
3/ 2	歴史街道推進協議会	大澤 研一
3/ 8	（公財）和歌山県文化財センター	松尾 信裕
3/ 8	大阪歴史博物館友の会	酒井一光・ 木土 博成
3/ 9	芦屋川カレッジ学友会	大澤 研一
3/13	平野区画整理記念会館	大澤 研一
3/19	筑波大学図書館情報メディア系	李 陽浩
3/21	喜連村史の会	豆谷 浩之

大学への非常勤講師派遣

大学名	科目等	担当者
同志社大学	文化史基礎演習	船越 幹央
大阪芸術大学	服飾史	中野 朋子
大阪市立大学	歴史のなかの大阪	八木 滋

視察

日付	来訪者	人数	対応者
4/14	山形県山形市議会	3	伊藤 廣之
7/ 9	長崎県松浦市	2	李 陽浩
7/ 9	大阪府大阪狭山市	2	栄原永遠男
7/14	愛知県議会	1	伊藤 廣之
8/25	故宮博物院	5	豆谷 浩之
8/28	熊本県	3	大澤 研一
10/30	岡山県総社市	9	伊藤 廣之
11/13	宮城県仙台市議会	15	大澤 研一
1/31	群馬県前橋市	7	豆谷 浩之

条例と規則

○大阪歴史博物館条例

平成 13 年 4 月 1 日

条例第 60 号

大阪歴史博物館条例を公布する。

大阪歴史博物館条例

(設置)

第 1 条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）を大阪府中央区大手前 4 丁目に設置する。

(目的)

第 2 条 博物館は、大阪の歴史及び文化に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第 3 条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 大阪の歴史及び文化に関する実物、標本、模写、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 大阪の歴史及び文化に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を開催すること
- (3) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (4) 大阪の歴史及び文化に関する相談を受け、及び情報を提供すること
- (5) 博物館資料を貸し出すこと
- (6) 博物館資料及び遺跡に関する調査研究を行うこと
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

(資料の寄贈又は寄託)

第 4 条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

(休館日)

第 5 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
- (2) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで

2 前項の規定にかかわらず、第 15 条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第 6 条 博物館の供用時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

2 前条第 2 項及び第 3 項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第 2 項中「前項」とあるのは「第 6 条第 1 項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第 3 項中「前項」とあるのは「第 6 条第 2 項の規定により読み替えられた第 5 条第 2 項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第 7 条 別表第 1（省略）に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第 8 条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3

年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団の利益になるとき

(5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第 9 条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

(1) 偽りその他不正の手段により第 7 条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき

(2) 前条各号に定める事由が発生したとき

(3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第 10 条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第 8 条第 4 号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったときは、第 8 条第 4 号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第 11 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

(1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者

(2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者

(3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者

(4) 管理上必要な指示に従わない者

(5) その他管理上支障があると認めるとき

(特別研究の許可)

第 12 条 博物館資料について特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出しの許可)

第 13 条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(利用料金)

第 14 条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 17 条第 1 項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

(1) 観覧料 1 人 1 回につき別表第 2 に掲げる金額

(2) 貸出料 その都度教育委員会が定める額

(3) 施設使用料 別表第 1（省略）に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める金額）

4 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の 2 割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前 2 項の規定による金額の 5 割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様と

- する。
- 6 教育委員会は、前3項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。
- 7 指定管理者は、教育委員会が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 8 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。
- (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
 - (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
 - (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき
- (管理の代行)
- 第15条 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。
- (指定の申請)
- 第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。
- 2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。
- (欠格条項)
- 第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。
- (1) 破産者が復権を得ないもの
 - (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの
 - (3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの
 - ア 第1号に該当する者
 - イ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
 - ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者
- (指定管理予定者の選定)
- 第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。
- (1) 住民の平等な利用が確保されること
 - (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
 - (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと
- (指定管理者の指定等の公告)
- 第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。
- (業務の範囲)
- 第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。
- (1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
 - (2) 建物及び設備の維持保全に関すること
 - (3) その他博物館の管理に関すること
- (施行の細目)
- 第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で

- 定める。
- 附 則（平成13年11月3日施行、告示第1155号）抄（施行期日）
- 1 この条例の施行期日は、市長が定める。（大阪市立博物館条例の廃止）
 - 2 大阪市立博物館条例（昭和35年大阪市条例第35号）は、廃止する。
- 附 則（平成17年9月22日条例第108号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第342号）
- この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第18条の次に6条を加える改正規定（第20条から第22条まで及び第23条前段に係る部分に限る。）は、公布の日から施行する。
- 附 則（平成19年12月28日条例第106号）
- この条例は、公布の日から施行する。
- 附 則（平成21年11月26日条例第129号）
- 1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第8条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に1条を加える改正規定は、平成22年1月1日から施行する。
 - 2 この条例による改正後の大阪歴史博物館条例（以下「改正後の条例」という。）第14条第3項から第5項までの規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、これらの規定及び改正後の条例第14条第6項の規定の例により行うことができる。

別表第2

	区分	普通 観覧料	団体（20人 以上）観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特別展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

○大阪歴史博物館条例施行規則

- 平成18年3月31日
（教）規則第5号
大阪歴史博物館規則（平成13年大阪市教育委員会規則第34号）を次のように改正する。
大阪歴史博物館条例施行規則
（趣旨）
- 第1条 この規則は、大阪歴史博物館条例（平成13年大阪市条例第60号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。
（博物館資料の寄贈等の申出）
- 第2条 条例第4条の規定により大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。
- （寄託資料の取扱い）
- 第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。
- 2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。
（利用料金の納付時期）
- 第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。
（附属設備の利用料金）

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種類及び金額は、別表（省略）のとおりとする。

（指定申請の方法）

第6条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

- 2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。
- (1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
 - (2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書
 - (3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。
 - (4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
 - (5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類
 - (6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類
 - (7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類
 - (8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書
 - (9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第7条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第8条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる

事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の取支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあつては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。（損害賠償等）

第9条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第10条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助執行させることとした場合においては、第11条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。

（施行の細目）

第11条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
 - 2 大阪歴史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第26号）は、廃止する。
- 附 則（平成22年3月26日（教）規則第11号）
この規則は、平成22年4月1日から施行する。

運営組織

大阪歴史博物館は、公益財団法人大阪市博物館協会が指定管理者として、管理代行を行った。

人事

新規採用（平成26年4月1日）
館長 栄原永遠男
総務課長 大対好行
総務課係員 山本幸恵
研究主幹 松尾信裕
学芸課係員 本土博成
転入（平成26年4月1日）
企画広報課企画広報係長 松本百合子 （公財）大阪市博物館協会総務部事業企画課兼 大阪文化財研究所調査課より
総務課係員 安田 縁 （公財）大阪市博物館協会大阪城天守閣総務課より
転出（平成26年4月1日）
企画広報課情報資料係長 澤井浩一 （公財）大阪市博物館協会総務部事業企画課へ

組織

館長 栄原永遠男	副館長兼学芸課長 伊藤廣之
総務課 課長 大対好行	課長代理 藤田正和
係員 塩野正雄 高浜さゆり	川端優子 安田 縁 山本幸恵
企画広報課 課長 大澤研一	企画広報係 係長 松本百合子
	主任学芸員 酒井一光
	係員 杉本厚典
	柴田晃子
情報資料係 係長 加藤俊吾	係員 李 陽浩
	飯田直樹
	小林佳美
	宮下愛子
研究主幹 松尾信裕	
学芸課 課長 伊藤廣之	課長代理兼学芸第2係長 豆谷浩之
学芸第1係 係長 伊藤 純	係員 内藤直子 岩佐伸一
学芸第2係 係長 豆谷浩之	主任学芸員 寺井 誠
	係員 本土博成 勝本千賀
学芸第3係 係長 船越幹央	係員 中野朋子 村元健一
	八木 滋 柴田善美

大阪歴史博物館年報 平成 26 年度

平成 27 年 6 月 19 日発行©

編集・発行 大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本 株式会社大伸社

〒537-0001 大阪市東成区深江北2-14-1

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Jun. 2015